

# ワクチンの接種間隔改定とロタワクチン定期接種化

県感染症情報センター

## 声なき 感染症を知る

◆78◆

令和2年10月はワクチンに関して大きなトピックが二つあります。一つは接種間隔の改定、もう一つはロタウイルスワクチンの定期接種開始です。今回は、この三つのトピックを中心に、感染症の流行を防ぐ手段の一つである「ワクチン」についてお話しします。

### ▽ワクチンとは

ワクチンは、病原性を弱めたり、無くしたウイルスや細菌などの病原体を利用した医薬品のことで、接種することでその病原体に対する免疫を作り出します。免疫がつくことでその病原体が引き起こす感染症に対してかかりにくくなったり、重症化するのを防ぎます。ある感染症(例えば季節性インフルエンザ)に対して作られたワクチンは、その感染症(季節性インフルエンザ)のルールの一部が改定されました。

だけなく周りの人を守るものでもあります。

### ▽気づかれにくいワクチンの効果

ワクチンを接種した感染症を発症しなかった場合に、ワクチンを接種してから防げたのか、それとも接種していないても感染しなかったのかは、わからないことがほとんどです。特に、その感染症が流行していない場合は、接種しなくとも感染しなかったかもしれません。ワクチンだけでなく周囲の人も守る種の感染症に対してワクチン接種する場合

種により免疫がついた人が集団や社会に多くなれば、免疫がない人がほとんどの状況に比べると、感染する可能性が下がります。よって人から人への感染伝播する可能性が減り、流行しにくくなります。ワクチン接種は自分

一方で、ワクチンを接種しても完全に感染を防ぐことはできないので、接種していく感染したり、接種後に副反応がでた場合には、ワクチンに対してネガティブな印象しか残らないかもしれません。しかし、ワクチンは、有効性、安全性や費用対効果などを加味して認可されており、実際にその感染症にかかる場合に比べ、死亡リスクや合併症、後遺症が残るリスクはるかに低いです。

## 感染や重症化を予防 時期と回数を適切に

だけなく周りの人を守るものでもあります。

### ▽接種間隔の改定

今年10月1日、ワクチンの接種間隔のルールの一部が改定されました。病原性を弱めて生きた病原体を利用したものを「生ワクチン」、病原性を無くした病原体の一部を利用したもの、「不活化ワクチン」といいます。これら異なるワクチン(不活化ワクチン、経口生ワクチン)を続けて接種する場合、接種間隔が、ワクチンの有効性、安全性に影響するという報告はなく、接種は決めるべきです。

～接種間隔についての3つのルールです～

1

注射生ワクチンから次の注射生ワクチンの接種を受けるまでは27日以上の間隔をおくこと。

※注射生ワクチンとは、麻疹・風疹・水痘・BCGワクチンなど

2

同じ種類のワクチンの接種を複数回受ける場合はワクチンごとに決められた間隔を守ること。

※ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、ロタウイルスワクチン、B型肝炎ワクチンなど、それぞれのワクチンの接種を複数回受ける際の間隔が決められています。

3

発熱や接種部位の腫脹(はれ)がないこと、体調が良いことを確認し、かかりつけ医に相談の上、接種を受けること。

接種間隔について(厚生労働省のホームページから)

化

また同じく10月1日から、ロタウ

に27日間以上あけること以外には、接種間隔に対する制限を設けないようになりました。このルールは世界的には以前から標準でしたが、ようやく日本でも認められ、接種スケジュールの調整、計画がたてやすくなりました。

▽ロタウイルスワクチンの定期接種

国内において入院例に対する高いワクチン効果や入院率の減少効果など、特に2歳未満では重症化しやすいです。ワクチンは重症化しやすい感染前に接種することで重症化予防を図ることを目的としていますが、これまで任意接種となっていました。

▽ワクチンは適切な時期と回数で接種を

感染症はそれぞれ流行あ

るいは重症化しやすい年代や集団があり、そのこととワクチンの効果持続期間によつて接種の時期と回数が決められています。新型コロナウイルス感染症の影響で医療機関への受診控えが増えていますが、感染症は

新型コロナウイルス感染症だけではありません。ワクチンで予防可能な感染症の流行を防ぐためにもワクチン接種は決めるべきです。

結果的となります。

ロタウイルスは、乳幼児期にかかりやすい胃腸炎の原因ウイルスの一つです。ワクチンは重症化しやすいです。ワクチンは重症化しやすい感染前に接種することで重症化予防を図ることを目的としていますが、これまで任意接種となっていました。

▽ワクチンが原則無料の定期接種として受けられるようになります。